

「北八ヶ岳縦走入門」(NPO法人埼玉県キャンプ協会埼玉県幼児キャンプ推進協議会)

試行・検証等のテーマ

(3) 子供たちの心身な健全の発達のための自然体験活動推進事業

① 体験活動の質を高めるためのデジタル技術の活用 ② 課題を抱える子供たちを対象とした体験活動

背景 ・ 課題

子ども達は自然体験活動から次第に遠ざかって行く傾向が見受けられる。一方、遊びのデジタル化は急速に進んでいる。このような中で自然体験活動の中で利用できるデジタル機器やソフトを活用して自然体験を展開していくことは子どものための新しい遊びの考え方に重要な影響を及ぼすと考えられる。また、近年は小学校において約8%近くの子ども達が特別な支援を求めていると言われている。自然体験活動は健常者が他者への思いやりや多様性社会について考える機会を十分に提供することが十分可能であると考えられる。

事業の ねらい

4泊5日の自然体験活動を通して、支援を必要とする参加者に対して健常者が他者を思いやる気持ち育むことを可能にしていく。日常生活で利用しているデジタル機器を自然体験活動で活用することの重要性と素晴らしさについて気づかせる。プログラムを通して自然の厳しさ大変さを感じると同時に、友達と協力すると様々な課題を乗り越えられることの素晴らしさについて理解を深める。

事業内容

<実施にかかる体制> 添付資料6参照
<テーマに基づいた試行、検証等の方法>

インターネット・情報検索ツールの活用によって、実施踏査の質を高める。Line等を活用し指導者間の連絡の促進化、情報の共有化を計る。参加者に対して実施場所、プログラム内容の事前学習を促す。YAMAP、Knots3D、キョリ測等のデジタル機器アプリを積極的に使用する。

<活動の内容>

- 実施期間：令和5年8月6日～10日(4泊5日)
- 実施場所：北八ヶ岳白駒池キャンプ場、麦草峠、坪庭、北横岳、高見石周辺
- 参加者属性、人数：幼児(年中2名)、小学生23名、中学1年3名の計28名
- 具体的なプログラム内容：
1日目；集合、バス乗車、白駒池キャンプ場にテント設営、周辺散策 2日目；白駒池一周、高見石、高見石小屋
3日目；八ヶ岳ロープウェイから坪庭、五辻、麦草峠。八峰の湯
4日目；テント撤収、蓼科へ移動、スライドショー、振り返り
5日目；荷物整理、バス乗車、解散



成果

○テーマに基づいた試行、検証等の評価・分析結果：デジタル機器の使用は電波の届く範囲内に限定されたが有効に活用された。参加の子どもの学年間を超えた協力や遊びが育っていくように感じられた。活動後半からいろいろな考えや行動をする他人を認めることの必要性を感じてきた。
○計画通りいった点やうまくいかなかった点：テントの設営場所がいわゆる「テンバ」であったため、キャンプの初心者には戸惑いを感じられずいられなかった。キャンプ場での生活のための移動時間が計画の1.3倍程度必要になった。対象を考慮した施設の選択が求められた。
○保護者や参加者から寄せられた意見：友達の名前を沢山覚えてきた。食べ物に関心を持つようになった。とても良い表情で帰ってきた。

今後の 展開

○今後の展開：自然体験活動の現場で使用できるデジタル機器について、日常生活で十分に使用方法を習得しておく。活動中の電波の受信の有無について調査を事前しておく。

テーマに基づいた試行・検証等の成果の活用
○次年度以降の計画や発展の見込み：支援が必要な子どもを2~3人程度増やし、参加の子ども達全員で自然体験活動を創り上げていくという意識を高める。特別支援を専門とする指導者を加える。4泊~5泊の長期の自然体験活動の有用性について量的・質的データの収集を行う。保護者への情報発信を積極的に行っていく。